

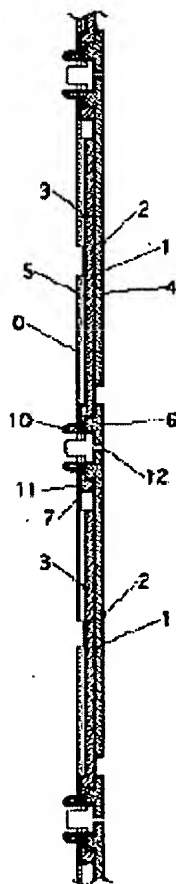
EXPANDABLE CONNECTIBLE HOLDER SYSTEM FOR SIMPLE DISPLAY OF COMPACT DISK

Patent number: JP2001110174
Publication date: 2001-04-20
Inventor: YAMASHITA HIDEYUKI
Applicant: YAMASHITA HIDEYUKI
Classification:
- international: G11B33/02
- european:
Application number: JP19990324516 19991008
Priority number(s):

Abstract of JP2001110174

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a system that simply holds CD's by engaging the center hole of the CD with each connecting part and that, as the whole structure, can simply display plural CDs all together indoors in an exposed state.

SOLUTION: A unit holder which is a constituent unit of the system is formed with two parts of a male piece 2 and a female piece 3; the unit holder becomes expandable by making their handle parts 4, 5 engaged with each other; the unit holders become connectible to each other by fitting their core parts 7, 8 to each other; at each connecting part, there is a projecting member 10 that fits to the diameter of the CD center hole and that elastically engages with the inner edge of the center hole; the projecting member can simply hold a CD by applying its center zone having no information tracks along a supporting base; and each connecting part simply becomes



fixable for example on an indoor
wall by means of ready-made thumb
tacks or screws through an attaching
hole in the center of the male fitting
part.

Data supplied from the *esp@cenet* database - Patent Abstracts of Japan

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-110174

(P2001-110174A)

(43)公開日 平成13年4月20日(2001.4.20)

(51)Int.Cl.

G 1 1 B 33/02

識別記号

5 0 3

F I

G 1 1 B 33/02

テマコード(参考)

5 0 3 Z

審査請求 未請求 請求項の数13 書面 (全 9 頁)

(21)出願番号

特願平11-324516

(22)出願日

平成11年10月8日(1999.10.8)

(71)出願人 598095879

山下 秀之

神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷3-8-15

(72)発明者 山下 秀之

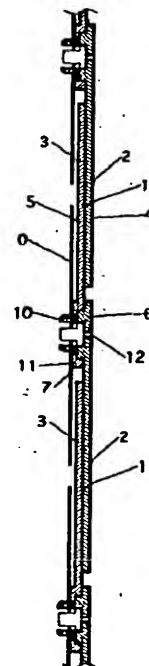
神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷3-8-15

(54)【発明の名称】 コンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 C D中央孔をその各連結部分に係合させてC Dを簡易保持し、構成全体では複数枚のC Dを露出したまま一挙に室内に簡易ディスプレイできるシステムの提供。

【解決手段】 システムの一構成単位である単位ホルダーで、オス型片2とメス型片3の2つの部品で形成され、双方のハンドル部4、5が勘合して単位ホルダーが伸縮可能となり、双方のコア部7、8の填合で単位ホルダー同士が連結可能となり、各連結部で、C D中央孔の直径に適合する突起部材10がありそれがC D中央孔の内縁に弾性的に係合してC Dを情報トラックのない中心ゾーンを支持台座に添わせながら簡易保持可能で各連結部は雄型詰め合わせの中心にある取付孔を通して、既製の画鋸やビスで壁などの室内に簡易固定可能となる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 (イ) 単位ホルダー(1)は、オス型片(2)とそれに吻合するメス型片(3)の2つの部品で形成される。

(ロ) オス型片(2)はハンドル部(4)を有し、メス型片(3)はハンドル部(5)を有し、双方が吻合することで、適度な合体強度が保持されたまま、伸縮式に単位ホルダー(1)が形成される。

(ハ) オス型片(2)はコア部(6)を有し、メス型片(3)はコア部(7)を有し、双方が詰め合わさること
10 2でアンダー(8)と微突起(9)がひっかかり、適度な合体強度が保持されたまま、単位ホルダー(1)同志が連結される。

(ホ) コア連結部は、コンパクトディスク(以下適宜CDと称す)(0)の中央孔の直径に適合する突起部材(10)を有し、それがCD中央孔の内縁に弾性的に係合し、CDの情報トラックのない中心ゾーンを支持台座(11)に添わたまま、CD(0)を簡易保持する。

(ヘ) 突起部材(10)は、コア連結部の中心から等
20 距離に配置された複数の突起からなる。

(ト) 支持台座(11)は、コア連結部の中心から環状に形成されている。

(ニ) コア連結部は、その中心に既製の画鋲やビス(50;51)を使って壁や家具などの取付面(55)に留められるように取付孔(12)を有す。

(チ) 単位ホルダー(1)は、複数個連結して連結体を形成し複数枚のCD(0)を一挙に簡易ディスプレイする。

以上のように構成された、コンパクトディスクの簡易デ
30 イスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項2】 突起部材(10)が、オス型片(2)のコア部(6)から立ち上がり、その高さによって突起部材の弾性が確保される一方で、支持台座(11)がメス型片(3)のコア部(7)に形成される、請求項1に記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項3】 突起部材(10)が、メス型片(3)のコア部(7)に形成される支持台座(11)と一体化し、その支持台座に施された切れ込み(13)によ
40 2つて、突起部材の弾性が確保される、請求項1に記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項4】 ハンドル部(4;5)が、一方で短冊片(14)に分岐し他方で折板形(15)を形成し、双方が長軸方向にスライド吻合し、先端にある小突起(16)が他方の凹部列(17)に係合して、単位ホルダー(1)の両端コア部(6;7)の中心同志を結ぶ2
点間距離を固定間隔毎(a)に調節する、請求項2または請求項3に記載のコンパクトディスクの簡易ディス
50 プレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

レイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項5】 ハンドル部(4;5)が、一方で凸部列(18)を有し他方で凹部列(19)もしくは小孔列(20)を有し、双方が詰め合わせり単位ホルダー

(1)の両端コア部(6;7)の中心同志を結ぶ2点間距離を固定間隔毎(a)に調節する、請求項2または請求項3に記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項6】 ハンドル部(4;5)が、一方ではして段(21)を有し他方で簡易ヒンジとフック(22;23)有し、双方に係合して単位ホルダー(1)の両端コア部(6;7)の中心同志を結ぶ2点間距離を固定間隔毎(a)に調節する、請求項2または請求項3に記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項7】 コア部(6;7)が、円周360度を等分割するギザギザ(24;25)が施された詰め合わせを有し、双方に係合して単位ホルダー同志の連結角度を固定角度毎(d)に調節する、請求項2から請求項6までのいずれか1項記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項8】 コア部(6;7)が、円周360度を等分割する凸部列(26)と凹部列(27)が施された詰め合わせを有し、双方に係合して単位ホルダー同志の連結角度を固定角度毎(d)に調節する、請求項2から請求項6までのいずれか1項記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項9】 コア部(6;7)が、一方に小突起(28)を有し他方に円周360度を等分割するスリット列(29)が施された詰め合わせを有し、双方に係合して単位ホルダー同志の連結角度を固定角度毎(d)に調節する、請求項2から請求項6までのいずれか1項記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項10】 ガラス、タイル、プラスチック、スチール、マグネットボードなどの硬質取付面(56)にも装着できるように、単位ホルダーの背面から取付孔(12)の内径に係合する突起物(52)を有する吸盤や磁石(53;54)が装着された、請求項2から請求項9までのいずれか1項記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項11】 単位ホルダー(1)を複数個連結した際の両最先端コア部も、一般連結コア部の構成と同じように、画鋲もしくはビスで留まりCDを保持できるようにするため、オス型片(2)のハンドル部(4)を有さないオス型独立コア(30)と、メス型片(3)のハンドル部(5)を有さないメス型独立コア(31)が付属した、請求項2から請求項10までのいずれか1項記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式

連結式ホルダーシステム。

【請求項12】 単位ホルダー(1)が複数個連結した際の全体造形美を獲得するために、ハンドル部とコア部が同一仕様で同一巾(B)である、直線ホルダー(32)と左回り円弧ホルダー(33)と右回り円弧ホルダー(34)とオス型独立コア(30)とメス型独立コア(31)の5品目を提供し、各ホルダーは両コア部

(6;7)の2点間最小距離(A)が同じで、その時の円弧ホルダー(33;34)は4分の1円周を形成し、円弧ホルダー(33;34)を最大伸張すれば3分の1円周を形成し、これらを複合連結すると様々な幾何学的なパターン(60~71)ができるようにした、請求項4から請求項6までのいずれか1項記載かつ請求項7から請求項9までのいずれか1項記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【請求項13】 単位ホルダー(1)が複数個連結した際の全体色彩美を獲得するために、各ホルダーのオス型片およびオス型独立コアの色彩を統一する一方で、メス型片およびメス型独立コアの色彩を別に統一した、請求項12記載のコンパクトディスクの簡易ディスプレイ用伸縮式連結式ホルダーシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、CDを保護カセットや専用ケースに収納せず、露出したまま室内に簡易ディスプレイする用具とそのシステムに関するものである。

【0002】

【従来の問題】CDを保護カセットや専用ケースから出し入れする事自体が煩わしく思える時がある。特に一時的に複数枚のCDを代わるがわる使用する場合は、たいへんに煩わしい。音楽鑑賞では、同時期に複数枚の音楽専用CDを反復している場合があり、それらをオーディオ機器に反復して入れ替える頻度が高い。コンピュータでは、ソフトをインストールしたりゲームなどをプレイする場合などに複数枚のCD-ROMをパソコン機器に交互に出し入れする頻度が高くなっている。近年では、CD-Rの普及により、家庭で簡単にCDを複製できるようになったが、その作業中にも数枚のCDをパソコン機器に反復して出し入れすることがある。保護カセットや専用ケースに収納する煩わしさに負けて、不用意にCDを露出したまま机上などに放置しておく、書類や書籍の間など目につきにくい場所にまぎれてCDを探すのに苦勞を要する。しかも、CDの情報媒体を保護しているポリカーボネート材表面に傷がつきデータが読み取れなくなってしまうことが少なくない。しかしながら、このような問題を解決すべく一時的に露出したまま複数枚のCDを室内に簡易保持する目的の用具はなかった。一方で、最近のCD、なかでも音楽専用CDの表面

にプリントされている絵柄やグラフィックに注目すると、その芸術性は高まるばかりで、従来室内に飾るべくしてあった絵画や写真に匹敵するほどである。すでに音楽鑑賞することがなくなったCDでも、絵として鑑賞する価値を見出すことはできる。しかも複数枚のCDを並べ飾りたてれば、郡造型の趣きもあって美的効果はいっそう高まり、インテリア装飾の素材としての価値を見出すことができる。しかしながら、CD表面の絵を鑑賞するために、CDを露出したまま複数枚並べて室内に簡易ディスプレイする目的の用具はなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明の課題は、すでに述べた従来の問題を解消すべく、構成単位としての単位ホルダーを複数伸縮連結させながら壁などの室内に固定し、CD中央孔をその各連結部分に係合させてCDを簡易保持し、構成全体では複数枚のCDを露出したまま一挙に室内に簡易ディスプレイすることができるシステムを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】すでに述べた課題を解決した本発明の要旨は、システムの一構成単位である単位ホルダーにおいて、オス型片とメス型片の2つの部品で形成され、双方のハンドル部が勘合することで単位ホルダーが伸縮可能となり、双方のコア部が詰め合わさることで単位ホルダー同士が連結可能となり、各連結部において、CD中央孔の直径に適合する突起部材があって、それがCD中央孔の内縁に弾性的に係合することで、CDを情報トラックのない中心ゾーンを支持台座に添わせながら簡易保持可能となり、さらに各連結部は雄型詰め合わせの中心にあいている取付孔を通して、既製の画鋸やビスで壁などの室内に簡易固定可能となり、その結果、複数個の単位ホルダーを次々に連結した構成全体では、複数枚のCDを露出したまま一挙に室内にディスプレイすることが可能なシステムになっていることにある。CDの簡易保持は、複数の弾性的突起から成る突起部材と支持台座との関係によるが、このための効果的な形状はコア連結部において、請求項2で記載したように突起部材がオス型片のコア部中心の取付孔まわりから立ち上がり、それらをメス型片のコア部に形成された環状支持台座がとり囲む場合と、請求項3で記載したように突起部材が先の環状支持台座と一体化されている場合との2通りである。突起部材の弾性は、前者の場合においては支持台座の切れ込みによって得られる。単位ホルダーを形成するためのオス型片とメス型片の勘合固定は、それぞれのハンドル部での勘合による合体強度によって得られるが、双方がずれないように伸縮し、双方コア部の中心同志を結ぶ2点間距離を固定間隔毎に調節できる効果的な形状は、請求項4から請求項6までに記載した通りである。複数個の単位ホルダーを連結するためのオス

型片とメス型片の詰め合わせ固定は、アンダーと微突起によるひっかかり強度によって得られるが、双方コア部の詰め合わせを一定角度毎に統制し、単位ホルダー同志の連結角度を固定角度毎に調節できる効果的な形状は、請求項7から請求項9に記載した通りである。単位ホルダーを壁などの室内に留めるために、基本的には既製の画紙もしくはビスを使うが、吸盤や磁石を使ってガラス、タイル、プラスチック、スチール、マグネットボードなどの硬質取付面にも装着する方法は、請求項10に記載した通りである。コア連結部では、CD中央孔に係合する突起部材と、CD中央ゾーンを添わせる台座と、画紙などを通す取付孔が三位一体となるが、単位ホルダーを複数個連結した全体の両最先端コア部は、一方がオス型片のコア部のみで、他方がメス型片のコア部のみで終わり機能的には不完全であり、それらをオス型独立コアとメス型独立コアによって補完する方法は、請求項11に記載した通りである。特に絵柄が美しい音楽CDを鑑賞用の絵として複数枚ディスプレイする場合には、複数の単位ホルダーによる連結体の全体造形美が重要であり、それは単位ホルダーの形や大きさや色によってかなり左右される。そこで、同一規格で同一巾の直線・右回り円弧・左回り円弧の3種類の単位ホルダーとオス・メスの2種類の独立コアの合計5品目を提供し、それらのオス型片とオス型独立コアの色彩を統一する一方で、メス型片とメス型独立コアの色彩を別に統一し、複合連結すると幾何学的なパターンができる方法は、請求項12および請求項13に記載した通りである。

【0005】

【発明の実施の形態】オス型片をメス型片に勘合して第1の単位ホルダーを形成し、壁などの室内の留めたい場所に、市販の画紙やビスを取付孔に通して簡易固定する。次に同様に形成した第2の単位ホルダーをもって、そのメス型片にあるコア部を先の単位ホルダーのオス型片にあるコア部に詰め合わせ、その際に第2の単位ホルダーの伸縮具合や連結角度を調整しながら、市販の画紙やビスを取付孔に通して第2の単位ホルダーを連結固定する。このような作業を繰り返し、第2の単位ホルダーに第3のホルダーを連結し、第3に第4を連結し、以下繰り返し必要な個数だけ単位ホルダーを連続させて、全体造形をし終える。その際に、最後の単位ホルダーを第1の単位ホルダーに連結して全体造形をループとして終わらせることもできるが、全体造形が両最先端部をもって終わる場合には、一方にオス型独立コアを、他方にメス型独立コアを詰め合わせ、両最先端部を完結させる。単位ホルダーや独立コアをガラスやタイルやスチールやマグネットボードなどの硬質取付面に留めるためには、取付孔に背面から詰め合わせる突起物を有する専用吸盤を、あるいは同様の突起物を有する専用磁石を単位ホルダー装着して、それらを連結しながら全体造形をする。なお、両面テープを取付面と単位ホルダーや独立コアの

背面との間に貼れば、大抵の物に単位ホルダーを留めることができる。このようにして造形された連結体においてCDを取り付ける際に、その中央孔を単位ホルダーの各連結部にある突起部材に詰め合わせながら係合させ、CDの情報トラックのない中心ゾーンを支持台座に添わせて、CDを簡易保持する。全体造形においてコア連結部がある数だけCDを保持することができる。同一規格で同一巾の5品目（直線ホルダー、左回りと右回りの円弧ホルダー、オス型とメス型の独立コア）を、特に連結角度を60°、90°、120°、180°に限定しながらつないでいくと、幾何学的な全体造形を実現することができる。

【0006】

【発明の社会的背景】インターネットの普及によってますます拍車がかかっているパーソナル・コンピュータは、職場だけでなく各家庭の各個室にまで行き渡り、国民1人1台ずつの端末機があって当たり前の時代は近いように思える。その中にあって、主力のメディアであるCD（コンパクトディスク/ディスク状の高密度情報担体）の生産枚数は急増しているが、その需要のうち個人用途の比率は、冒頭で述べた社会的背景において拡大の一途である。CDの種類も多種多様化され、すでに普及している音楽CDやMD、パソコン用CD-ROMに続いてゲームCD、そして今後、CD-R、DVDなどが一般普及を目前に控えている。このように一般家庭が所有するCDの数は劇的に増加している。家庭におけるCD平均所有枚数が、書籍所有冊数を上回るのは時間の問題である。その顕著な証拠として、CDを複数収納する保護カセットや専用ケースはすでに多種多様に出回り、さらに家具として大容量の整理棚や容器もインテリアショップや雑貨店に多く売られるようになってきた。CDを保護カセットや専用ケースから出し入れする事自体が煩わしく思える時がある。特に一時的に複数枚のCDを代わるがわる使用する場合は、たいへんに煩わしい。音楽鑑賞では、同時期に複数枚の音楽専用CDを反復している場合があり、それらをオーディオ機器に繰り返し入れ替える頻度が高い。コンピュータでは、ソフトをインストールしたりゲームなどをプレイする場合などに複数枚のCD-ROMをパソコン機器に交互に出し入れする頻度が高くなっている。よって、保護カセットや専用ケースに収納する煩わしさに負けて、不用意にCDを露出したまま机上などに放置しておきがちである。書類や書籍の間など目につきにくい場所にまぎれて探すのに苦勞を要する。しかも、CDの情報媒体を保護しているポリカーボネート材表面に傷がつきデータが読み取れなくなってしまうことが少なくない。こうした不注意な扱いの背景には、CDの価値低下という傾向があると思われる。黎明期から最近まで後生大事に扱われていたCDだが、今後、その価値は大量消費材化によって低下していくと思われる。その理由として、書籍などに付録で無料

CDが付いてくるようになったこと、家庭でCDの複製が手軽にできるようになったこと、傷んだCDでもCD表面を研磨することで少なからず修復できることなどがあげられる。ちなみに、CDに書き込まれたデータが読み取れなくなることに伴って、情報媒体を保護しているポリカーボネート材表面に傷がついている場合がほとんどである。それはCDの記憶媒体自体が傷んでいるのではないので、ポリカーボネート材を0.2mm程度まで薄く研磨するだけで再生可能だと言われている。傷の補修をする専門のCD研磨業者は増えてきて、1枚数百円程度で修復している。ところで、最近のCD、なかでも音楽専用CDの表面にプリントされている絵柄やグラフィックに注目すると、その芸術性は高まるばかりで、従来室内に飾るべくしてある絵画や写真に匹敵するほどである。1990年代の中ごろまでは、CDジャケット（ケースに収納されているプリント紙）において目を見張るような美しいデザインがあったとしても、CD自体のプリントはそのほとんどが銀盤をベースにコンテンツの内容を表示する文字だけだったが、ほんの数年間でその状況は美的に大きく進歩した。さて、現在では多く見られるようになったCD面上の美しいプリントだが、その背景には、音楽産業が音楽コンテンツのみならず、ビジュアルコンテンツをも重用視していることがあげられる。その傾向は強まるばかりで、今後、より一層芸術性の高いCD表面のグラフィック生産が期待される。しかし一旦、その音楽鑑賞の期間が過ぎれば、そのほとんどはお蔵入りである。流行のサイクルは短くなるばかりなので、手に入れた音楽CDを堪能しないまま、すぐにしまってしまうことが多くなっている。見方を変えれば、家庭で多くの絵を所有しているにもかかわらず、その価値に気づかぬまま放置している状態である。ポスターやグラビアを壁に貼って鑑賞するように、CD自体を室内にディスプレイすれば、インテリアデザインの新しい素材になる。よって、すでに音楽鑑賞することがなくなったCDでも、絵として鑑賞する価値を見出すことはできる。直径12cmの円盤に施されたグラフィックの独特な世界は、万国共通のビジュアルアートであると言っても過言ではない。規格サイズゆえに、複数枚のCDを並べ飾りたてれば、群造形の起きもあって美的効果はいっそう高まる。ちなみに、CDを専用の保護カセットにいったままでディスプレイする用具はあるが、CDを露出して複数同時にディスプレイする専用の用具はない。絵をディスプレイするためにピクチャーフレームがあるように、好みのCDを複数枚同時にディスプレイできるような用具があつてしかるべきである。似たような商品は、まだいずれの国からも出ていない。

【0007】

【発明の効果】本発明を使えば、頻繁に使用するCDの手軽な仮置きに便利である。ワンタッチで脱着できるこのホルダーシステムを、オーディオ機器やパソコン機器

の近辺にある壁面などに常時固定していれば、同時期に複数枚のCDを反復して入れ替えする時など、いちいち保護カセットなどにしまったりするわずらわしさから解放され作業効率が増す。また、不用意にCDを露出したまま机上などに放置して傷がつき、データが読み取れなくなってしまう可能性も減る。一方で、このホルダーシステムを使えば、ポスターやグラビアを壁に貼るように、CDを露出したまま壁面、窓面、家具面、機器面などにディスプレイすることができる。絵として価値の高いCDのグラフィックが、インテリアを飾る効果的な素材となる。若い人達は、絵を多く持っているとは言えないまでも、音楽CDならば例外なく多数枚持っているもので、複数のホルダーを好みな造形でレイアウトし、各連結部に花をさかせるようにCDを飾ることは興味深いホビーになりえる。コレクションとして持っている好きなアーティストの一連のCDをディスプレイすれば、CDを制作する側の立場に立ってみれば、本発明によってディスプレイされるという意識がCD表面のグラフィックに向かう創造性を刺激し、さらに興味深いアートが生まれ得る。また、情報担体ではなく、単に外径12cm、厚み1.2mm、内径15mmというポリカーボネート製もしくは紙製の円盤が、新しいグラフィック・アートのキャンバスとして絵ハガキのような商品市場を形成する可能性もある。古くなってお蔵入りになった音楽CDさえ、グラフィックという観点で見直せば、リプリントされて「CDグラフィックアート」という市場を作り得る。以上に述べた効果によって、万国共通規格であるCDをディスプレイする用具とそのシステムは、国を問わず人々の様々な興味を引く現代アートとして発展する可能性があると思われる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

第1図に断面にして概略的に示すのは、単位ホルダー（1）がオス型片（2）とメス型片（3）の勘合体であり、単位ホルダー（1）同志がコア部（6）とコア部（7）が詰め合わさって連結し、その連結部にある突起部材（10）と支持台座（11）によってCD（0）を簡易保持するシステムである。

【図2】

第2図に正面にして概略的に示すのは、図1で表現したものの正面である。

【図3】

第3図および第4図に断面および正面にして示す実施例では、突起部材（10）がオス型片（2）のコア部（6）から立ち上がり、支持台座（11）がメス型片（3）のコア部（7）に形成され、取付孔（12）がその中央にある。

【図5】

第5図に断面にして概略的に示すのは、図3および図4で示した実施例を持つオス型片（2）とメス型片（3）が勘合して単位ホルダー（1）を形成する場合である。

【図6】

第6図に断面にして概略的に

示すのは、図3および図4で示した実施例を持つ単位ホルダー(1)同志のコア部(6)とコア部(7)が填め合わさって連結し、既製の画鋲(50)にて取付面(55)に固定される場合である。

【図7】

【図8】 第7図および第8図に断面および正面にして示す実施例では、突起部材(10)がメス型片(3)のコア部(7)に形成された支持台座(11)と一体化している。

【図9】 第9図に断面にして概略的に示すのは、図7および図8で示した実施例を持つオス型片(2)とメス型片(3)が勘合して単位ホルダー(1)を形成する場合である。

【図10】 第6図に断面にして概略的に示すのは、図7および図8で示した実施例を持つ単位ホルダー(1)同志のコア部(6)とコア部(7)が填め合わさって連結し、既製の画鋲(50)にて取付面(55)に固定される場合である。

【図11】

【図12】 第11図および第12図に示す実施例では、一方で短冊片(14)に分岐した一方のハンドル部が合方ハンドル部に長軸方向にスライド勘合し、先端にある小突起(8)が合方の凹部列(9)に係合してホルダー(1)の両端コア部(10;11)の中心同志を結ぶ2点間距離を固定間隔毎に調節する。

【図13】

【図14】 第13図および第14図に示す実施例では、ハンドル部(4;5)が、一方で凸部列(32)を有し他方で凹部列(33)もしくは小孔列(34)を有し、双方が係合してホルダー(1)の両端コア部(10;11)の中心同志を結ぶ2点間距離を固定間隔毎に調節する。

【図15】

【図16】 第15図および第16図に示す実施例では、ハンドル部(4;5)が、一方ではしご段(35)を有し他方でヒンジとフック(36;37)有し、双方が係合してホルダー(1)の両端コア部(10;11)の中心同志を結ぶ2点間距離を固定間隔毎に調節する。

【図17】 第17図に示す実施例では、コア部(6;7)が、円周360度を等分割するギザギザ(24;25)を有し、双方が係合してホルダー連結角度を固定角度毎に調節する。

【図18】 第18図に示す実施例では、コア部(6;7)が、円周360度を等分割する凸部列(26)と凹部列(27)を有し、双方が係合してホルダー連結角度を固定角度毎に調節する。

【図19】 第19図に示す実施例では、コア部(6;7)が、一方に小突起(28)を有し他方に円周360度を等分割するスリット列(29)を有し、双方が係合してホルダー連結角度を固定角度毎に調

節する。

【図20】

【図21】 第20図および第21図に示す実施例では、図3および図4で示した実施例に基づくオス型独立コア(30)とメス型独立コア(31)

【図22】

【図23】 第22図および第23図に示す実施例では、図7および図8で示した実施例に基づくオス型独立コア(30)とメス型独立コア(31)

【図24】 第24図に示す実施例では、吸盤(53)に形成された突起物(52)がオス型片(2)の背面から取付孔(12)に取り付く。

【図25】 第25図に示す実施例では、磁石(54)に形成された突起物(52)がオス型片(2)の背面から取付孔(12)に取り付く。

【図26】～

【図30】 第26図から第30図に示す実施例では、同一規格で同一巾(B)の直線ホルダー(32)と左回り円弧ホルダー(33)と右回り円弧ホルダー(34)とオスとメスの独立コア(30;31)の5品目であり、各ホルダーは両コア部(6;7)の2点間最小距離(A)が同じで、その時の円弧ホルダー(33;34)は4分の1円周を形成し、円弧ホルダー(33;34)を最大伸張すれば3分の1円周を形成する。

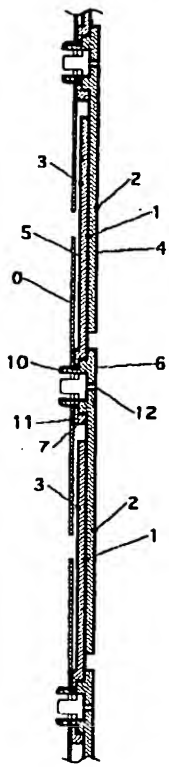
【図31】～

【図42】 第31図から第42図に示す実施例では、図26から図30で示した5品目を複数個用いて、複合連結すれば様々な幾何学的なパターン(60～71)が構成される。

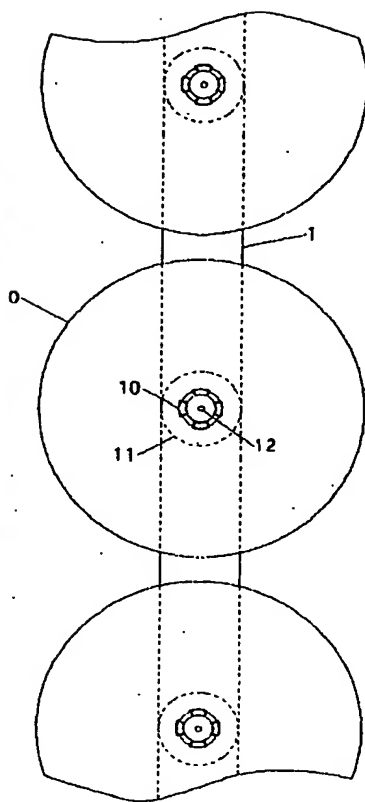
【符号の説明】

0……CD、1……単位ホルダー、2……オス型片、3……メス型片、4……ハンドル部、5……ハンドル部、6……コア部、7……コア部、8……アンダー、9……微突起10……突起部材、11……支持台座、12……取付孔、13……切れ込み、14……短冊片、15……折板形、16……小突起、17……凹部列、18……凸部列、19……凹部列、20……小孔列、21……はしご段、22……簡易ヒンジ、23……フック、24……ギザギザ、25……ギザギザ、26……凸部列、27……凹部列、28……小突起、29……スリット列、30……オス型独立コア、31……メス型独立コア、32……直線ホルダー、33……右回り円弧ホルダー、34……左回り円弧ホルダー、50……既製の画鋲、51……既製のビス、52……突起物、53……吸盤、54……磁石、55……取付面、56……硬質取付面、60～71……幾何学的なパターン、a……単位ホルダーの両端コア部の中心同志を結ぶ2点間距離を調節する固定間隔毎の値、d……単位ホルダー同志の連結角度を調節する固定角度毎の値、A……単位ホルダーの両端コア部の中心同志を結ぶ2点間距離、B……単位ホルダーの巾

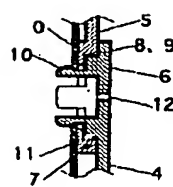
【図1】



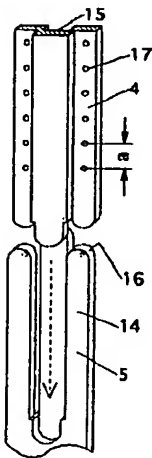
【図2】



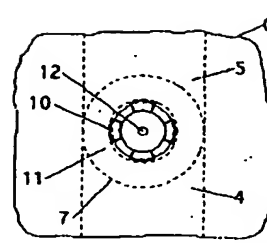
【図3】



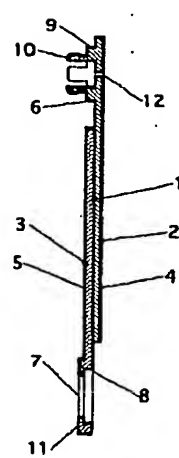
【図11】



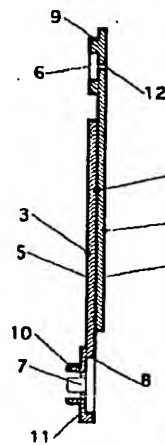
【図4】



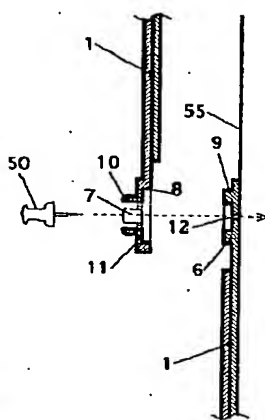
【図5】



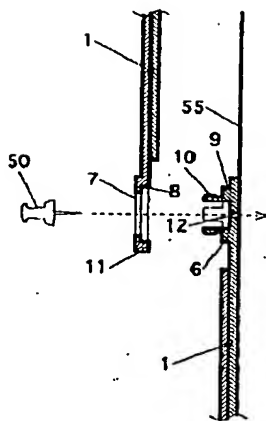
【図9】



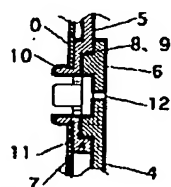
【図10】



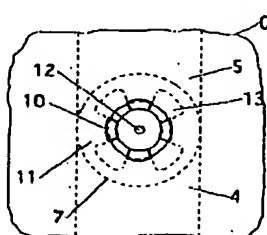
【図6】



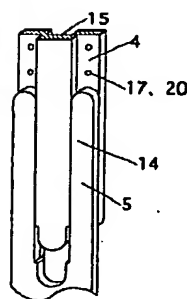
【図7】



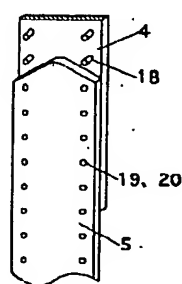
【図8】



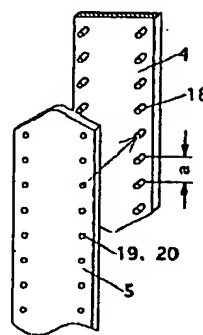
【図12】



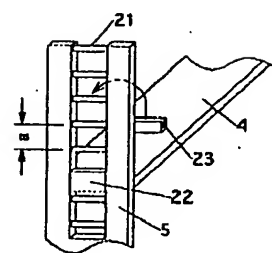
【図14】



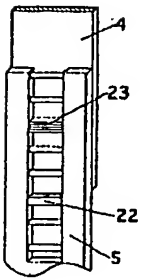
【図13】



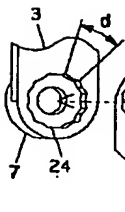
【図15】



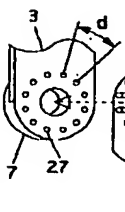
【図16】



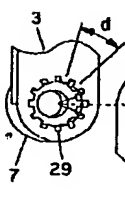
【図17】



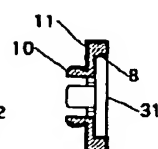
【図18】



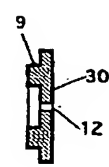
【図19】



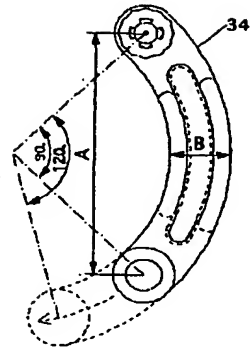
【図20】



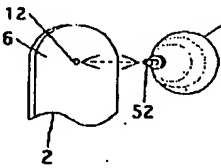
【図21】



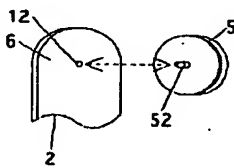
【図28】



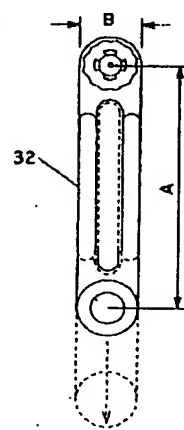
【図24】



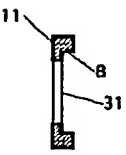
【図25】



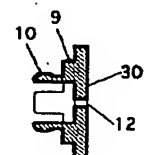
【図26】



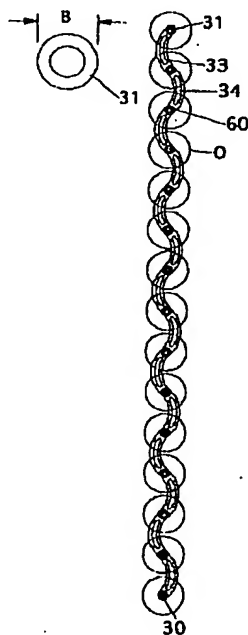
【図22】



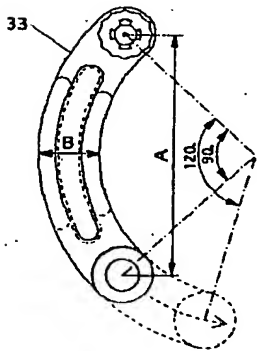
【図23】



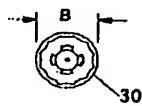
【図30】 【図31】



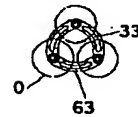
【図27】



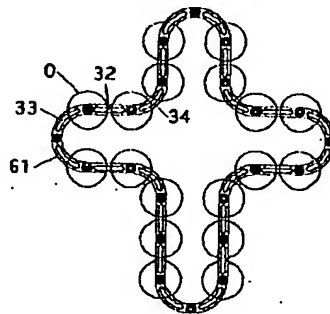
【図29】



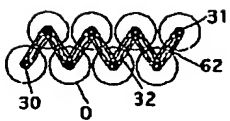
【図34】



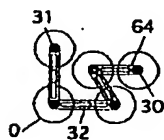
【図32】



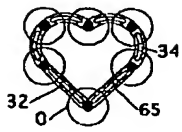
【図33】



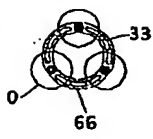
【図35】



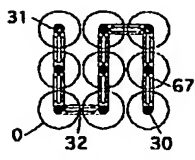
【図36】



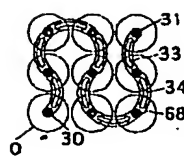
【図37】



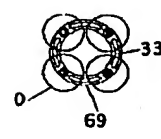
【図38】



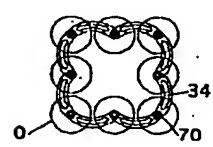
【図39】



【図40】



【図41】



【図42】

